

2024年度金沢大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは金沢大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、金沢医療センター皮膚科、石川県立中央病院皮膚科、金沢赤十字病院皮膚科、金沢市立病院皮膚科、公立能登総合病院皮膚科、小松市民病院皮膚科、加賀市医療センター皮膚科、富山県立中央病院皮膚科、富山赤十字病院皮膚科、富山市民病院皮膚科、黒部市民病院皮膚科、市立砺波総合病院皮膚科、福井県立病院皮膚科を研修連携施設として、厚生連高岡病院皮膚科、珠洲市立総合病院内科、市立輪島病院内科、公立宇出津総合病院内科、公立穴水総合病院内科・皮膚科、公立松任石川中央病院内科・皮膚科、公立つるぎ病院内科を研修準連携施設とした研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは皮膚外科技能の習得や博士号取得の希望に応じて、複数の研修コースを設定している。また、連携研修施設の選択においては、他専攻医や研修施設の状況次第であるが、ある程度まで専攻医の志向を忖度する余地がある（項目Jを参照のこと）。

C. 研修体制：

研修基幹施設：金沢大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：松下貴史（診療科長）

専門領域：膠原病、アレルギー

指導医：濱口儒人 専門領域：膠原病

指導医：前田進太郎 専門領域：皮膚悪性腫瘍、乾癬

指導医：伊川友香 専門領域：アトピー性皮膚炎

指導医：大石京介 専門領域：皮膚悪性腫瘍、レーザー
指導医：澤田香織 専門領域：アトピー性皮膚炎
指導医：北野 佑 専門領域：乾癬
指導医：清水恭子 専門領域：皮膚悪性腫瘍、レーザー

施設特徴：北陸における医療の中核病院として、また大学病院として高度な診療を提供している。専門外来として、膠原病外来、アトピー外来、乾癬外来、腫瘍外来、レーザー外来、形成外科外来を設けており、北陸のみならず全国から患者の受診がある。外来患者数は1日平均約90名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能である。また、年間の局所麻酔処置件数は約380件で、全身麻酔下での皮膚科手術は約50件を行う。研究の面では、指導医との連携を強め、膠原病、創傷治癒、腫瘍免疫など多様な研究結果を創出し、世界へ発信している。

研修連携施設：金沢医療センター皮膚科
所在地：石川県金沢市下石引1番1号
プログラム連携施設担当者（指導医）：稲沖真（部長）
指導医：西島千博（医長）

研修連携施設：石川県立中央病院皮膚科
所在地：石川県金沢市鞍月東2丁目1番地
プログラム連携施設担当者（指導医）：筒井清広（部長）
指導医：越後岳士（医長）

研修連携施設：金沢赤十字病院皮膚科
所在地：石川県金沢市三馬2-251
プログラム連携施設担当者（指導医）：小村一浩（部長）

研修連携施設：金沢市立病院皮膚科
所在地：石川県金沢市平和町3丁目7番3号
プログラム連携施設担当者（指導医）：森俊典（部長）

研修連携施設：公立能登総合病院皮膚科
所在地：石川県七尾市藤橋町ア部6番地4

プログラム連携施設担当者（指導医）：谷内克成（部長）

研修連携施設：小松市民病院皮膚科

所在地：石川県小松市向本折町ホ 60

プログラム連携施設担当者（指導医）：小林忠弘（医長）

研修連携施設：加賀市医療センター皮膚科

所在地：石川県加賀市作見町リ 3 6 番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：木村浩（医長）

研修連携施設：富山県立中央病院皮膚科

所在地：富山県富山市西長江 2 丁目 2 番 7 8 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：八田尚人（部長）

指導医：石井貴之（医長）

研修連携施設：富山赤十字病院皮膚科

所在地：富山県富山市牛島本町 2-1-58

プログラム連携施設担当者（指導医）：中尾将治（部長）

研修連携施設：富山市民病院皮膚科

所在地：富山県富山市今泉北部町 2 番地 1

プログラム連携施設担当者（指導医）：野村佳弘（部長）

研修連携施設：黒部市民病院皮膚科

所在地：富山県黒部市三日市 1108-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：大石直人（部長）

研修連携施設：市立砺波総合病院皮膚科

所在地：富山県砺波市新富町 1 番 61 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：石田済（部長）

研修連携施設：福井県立病院皮膚科

所在地：福井県福井市四ッ井 2 丁目 8-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：岡本芳伸（医長）

研修準連携施設：厚生連高岡病院皮膚科

所在地：富山県高岡市永楽町5番10号

研修準連携施設：珠洲市立総合病院内科
所在地：石川県珠洲市野々江町ユ部1-1

研修準連携施設：市立輪島病院内科
所在地：石川県輪島市山岸町は1-1

研修準連携施設：公立宇出津総合病院内科
所在地：石川県鳳珠郡能登町字宇出津夕字97番地

研修準連携施設：公立穴水総合病院内科・皮膚科
所在地：石川県鳳珠郡穴水町川島字タ-8

研修準連携施設：公立松任石川中央病院内科・皮膚科
所在地：石川県白山市倉光3-8

研修準連携施設：公立つるぎ病院内科
所在地：石川県白山市鶴来水戸町ノ1番地

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる。

研修管理委員会委員

委員長：松下貴史（金沢大学病院皮膚科長）

委員：濱口儒人（金沢大学病院皮膚科准教授）
：前田進太郎（金沢大学病院皮膚科講師）
：稲沖真（金沢医療センター皮膚科部長）
：筒井清広（石川県立中央病院皮膚科部長）

- : 八田尚人（富山県立中央病院皮膚科部長）
- : 寺田慎子（金沢大学病院看護師）
- : 小村一浩（金沢赤十字病院皮膚科部長）
- : 森俊典（金沢市立病院皮膚科部長）
- : 谷内克成（公立能登総合病院皮膚科部長）
- : 小林忠弘（小松市民病院皮膚科医長）
- : 木村浩（加賀市医療センター皮膚科医長）
- : 中尾将治（富山赤十字病院皮膚科部長）
- : 野村佳弘（富山市民病院皮膚科部長）
- : 大石直人（黒部市民病院皮膚科部長）
- : 石田済（市立砺波総合病院皮膚科部長）
- : 岡本芳伸（福井県立病院皮膚科医長）

前年度診療実績：

	皮膚科		局所麻酔 年間手術数 (含生検術)	全身麻酔 年間手術数	指導医数
	1日平均 外来患者数	1日平均 入院患者数			
金沢大学	89人	23人	392件	30件	6人
金沢医療センター	32.8人	6.8人	255件	5件	2人
石川県立中央病院	49.5人	0.2人	156件	1件	2人
金沢赤十字病院	24.5人	2.1人	108件	0件	1人
金沢市立病院	8.5人	0人	1件	0件	1人
公立能登総合病院	50人	3人	35件	0件	1人
小松市民病院	24人	2人	41件	0件	1人
加賀市医療センター	27.1人	6.6人	55件	0件	1人
富山県立中央病院	70人	10人	610件	25件	2人
富山赤十字病院	48人	5.5人	242件	5件	1人
富山市民病院	40人	4.1人	35件	0件	1人
黒部市民病院	49.6人	4.3人	95件	0件	1人
市立砺波総合病院	45人	1人	110件	0件	1人
福井県立病院	39.8人	2.9人	165件	0件	1人
合計	514.8人	67.4人	1913件	66件	22人

D. 募集定員：11人

①通常プログラム：10名

②連携プログラム：1名

*連携プログラム枠がない場合は不要です。

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査および個人面接により決定（金沢大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また、選考結果は、本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、金沢大学皮膚科学講座のホームページに記載される担当者のメールアドレスへ連絡し、必要書類を確認のうえ、履歴書と併せて記入提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の3月31日までにプログラム研修開始届に必要な事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名をもらうこと。その後、同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

金沢大学医学部附属病院皮膚科
大石 京介（医局長）

TEL：076-265-2343

FAX：076-234-4270

E-mail：k-oishi@med.kanazawa-u.ac.jp

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p.26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 金沢大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、重症疾患、稀な疾患など専門性のより高い症例の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。他科と連携し、関連領域にわたる広い視野、知見を養う。

2. 金沢医療センター皮膚科、石川県立中央病院皮膚科、金沢赤十字病院皮膚科、金沢市立病院皮膚科、公立能登総合病院皮膚科、小松市民病院皮膚科、加賀市医療センター皮膚科、富山赤十字病院皮膚科、富山市民病院皮膚科、黒部市民病院皮膚科、市立砺波総合病院皮膚科、福井県立病院皮膚科では、急性期疾患、慢性疾患、頻度の高い疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、金沢大学医学部皮膚科の研修を補完する。富山県立中央病院皮膚科では、上記の研修内容に加え、皮膚悪性腫瘍、皮膚外科についてのより深い知識、技術の習得を目指す。これらの連携研修施設のいずれかで、少なくとも1年以上の研修を行う。また、金沢市内近隣の連携施設における研修では、金沢大学医学部皮膚科のカンファレンスや抄読会に、可能であれば参加することとする。金沢医療センター皮膚科、石川県立中央病院皮膚科における研修では、毎月第3木曜日の症例検討会に参加する。富山県立中央病院皮膚科、富山赤十字病院皮膚科、富山市民病院皮膚科ほか、富山県の連携施設における研修では、毎月第2木曜日の症例検討会に可能であれば参加する。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし、研修施設側の事情により、希望するコースや希望する連携施設での研修が出来ないこともあり得る。また、予定されている異動時期についても研修施設側の事情により、変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	連携	連携 (or 基幹)	連携 (or 基幹)	連携 (or 基幹)
b	基幹	連携 (富山県立中央)	基幹	基幹	基幹
c	基幹	連携	大学院 (基幹 外来)	大学院 (基幹 外来)	大学院 (基幹 外来)
d	大学院 (基幹 病棟)	大学院 (連携)	大学院 (基幹 外来)	大学院 (基幹 外来)	基幹

研修後半の「連携施設」での研修は「準連携施設」での研修に変更となる可

能性がある。

- a : 初年次に基幹病院、2 年次は連携病院で研修を行う基本的なコース。3 年次以降の研修期間中に、基幹病院へ戻り、重症例や稀少例への研鑽を深め、後輩の指導にあたる年次を設ける。連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが、諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。
- b : 皮膚外科医を目指すコース。2 年次は連携病院で研修を行うが、2 年次以降に、皮膚外科診療を得意とする施設(富山県立中央など)での研修を組み込み、基幹病院では悪性腫瘍の診療の研修を行うコース。
- c : 博士号取得を目指す基本コース。研修後半に博士号取得のための研究を開始するが、大学院入学の時期は希望に応じて調節可能とする。
- d : 専門医取得と博士号取得を同時に最速で目指すコース。本人の努力を要する。カリキュラムを修了できない場合は、研修期間あるいは大学院期間の延長の可能性があることを前提とする。なお、2 年次には連携施設において一年間まで(少なくとも 3 ヶ月以上)の研修を行うこととする。

2. 研修方法

1) 金沢大学医学部皮膚科

外来 : 診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟 : 病棟医長のもと数チームに分かれた診療チームいずれかの構成員となる。

専攻医は指導医のもと常時 5 症例前後の患者を主治医として担当し、診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週のカンファレンスで症例発表や病理プレゼンテーションを行い、評価を受ける。

他科と連携し定期的開催される膠原病カンファレンスに出席し、関連領域にわたる広い視野、知見を養う。3 ヶ月に一度の目安で、抄読会で英語論文を紹介する。教授やスタッフらにより月 3 回定期的開催される実践診療に役立つミニレクチャーを受講し、知識を深める。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：金沢大学医学部皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	回診、病棟	病棟	病棟	病棟	日直※	日直※

	(外来)	(外来)	(外来)	手術			
午後	病棟	病棟 カンファレンス	病棟 手術 (ミニレクチャー)	病棟 手術 (カンファレンス)	病棟 手術	宿直※	宿直※

※3年目以降は、日直宿直を月数回担当する。

2) 連携施設

金沢医療センター皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。金沢大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に可能であれば参加し学習する。毎月第3木曜日の市内皮膚科症例検討会に参加する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：金沢医療センター皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟 カンファレンス	病棟	外来 病棟 (症例検討会)	病棟		

石川県立中央病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。毎月第3木曜日の市内皮膚科症例検討会に参加する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：石川県立病院皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		

午後	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術 (症例検 討会)	病棟 手術		
----	----------	----------	----------	-------------------------	----------	--	--

金沢赤十字病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。金沢大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に可能であれば参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：金沢赤十字病院皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来 病棟	病棟 (カンファレ ンス)	病棟	外来 病棟	病棟		

金沢市立病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。金沢大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に可能であれば参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：金沢市立病院皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来 病棟	病棟 (カンファレ ンス)	手術 病棟	手術 病棟	外来 病棟		

公立能登総合病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：公立能登総合病院皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	手術 病棟	手術 病棟	外来 病棟	外来 病棟	手術 病棟		

小松市民病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：小松市民病院皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 (手術)	病棟 (手術)	病棟 (手術)	病棟 (手術)	病棟 (手術)		

加賀市医療センター皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：加賀市医療センター皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		

	(手術)	(手術)	(手術)	(手術)	(手術)		
--	------	------	------	------	------	--	--

富山県立中央病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。また、皮膚悪性腫瘍、皮膚外科についてのより深い知識、技術の習得を目指す。毎月第 2 木曜日の富山市皮膚科症例検討会に参加する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：富山県立中央病院皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	回診 病棟	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	手術 病棟	手術 病棟	手術 病棟 (症例検討会)	外来 病棟		

富山赤十字病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。毎月第 2 木曜日の富山市皮膚科症例検討会に参加する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：富山赤十字病院皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	手術 病棟	手術 病棟	手術 病棟 (症例検討会)	病棟		

富山市民病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。毎月第 2 木曜日の富山市皮膚科症例検討会に参加する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：富山市民病院皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟 (症例検討会)	外来 病棟		

黒部市民病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。可能であれば，毎月第 2 木曜日の富山市皮膚科症例検討会に参加する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：黒部市民病院皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来 病棟	手術 病棟	外来 病棟	手術 病棟 (症例検討会)	手術 病棟		

市立砺波総合病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，

手術法を習得する。可能であれば、毎月第 2 木曜日の富山市皮膚科症例検討会に参加する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：市立砺波総合病院皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 (手術)	病棟 (手術)	病棟 (手術)	病棟 (手術)	病棟 (手術)		

福井県立病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：福井県立病院皮膚科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 (手術)	手術 (手術)	手術 (手術)	手術 (手術)	病棟 (手術)		

3) 大学院

基幹大学病院においては、日中は 1) と同様に主に外来担当医としてフルタイムで研修し、17 時以降、大学院講義出席、研究、論文作成などを行う。連携施設においては、可能であれば近隣の施設への配属とし、日中は 2) と同様にフルタイムで研修し、17 時以降、大学での大学院講義出席、研究、論文作成などを行う。

4) 研修準連携施設

研修準連携施設である厚生連高岡病院皮膚科、珠洲市立総合病院内科、市立輪島病院内科、公立宇出津総合病院内科、公立穴水総合病院内科・皮膚科、公立松任石川中央病院内科・皮膚科、公立つるぎ病院内科は、いずれも地域医療を担う病院の一つである。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため、また各施設の内科では、皮膚科医として必要な内科的知識を体得することを目的として専門研修のうち1年間に限り、同施設での研修を行うことがある。また、大学病院および近隣の研修連携施設に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）、北陸地方会
7	
8	
9	北陸地方会（石川分科会、富山分科会、福井分科会）
10	
11	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う（開催時期は年度によって異なる）、北陸地方会
1	試験合格後：皮膚科専門医認定
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。北陸地方会
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 1 年 目：主に金沢大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
- 2 年 目：主に連携施設皮膚科において、引き続きカリキュラムに定められ

た一般目標，個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し，経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。地域医療の経験に相当する。

- 3 年 目：経験目標を概ね修了し，皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
- 4， 5 年目：経験目標疾患をすべて経験し，学習目標として定められている難治性疾患，稀な疾患など，より専門性の高い疾患の研修を行う。3 年目までに習得した知識，技術をさらに深化・確実なものとし，生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、北陸地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMed などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，利用すること。
2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医，指導医，総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p. 15～16

では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA. 形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は所定の評価期間内に指導医の確認を受ける。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート15例、手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断、異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設

のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

○. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね 2～3 回/月程度である。

2023年8月17日

金沢大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
松下 貴史